

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

財団法人かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2010年7月 No.4

今号の内容

◇青少年交流事業

中学生交流プログラム 3月に中国大連で実施
香港中文大学 — 早稲田大学 学術交流プログラム

◇高校生交換留学プログラム

来日と出発

◇第4回かめのり賞募集のご案内

◇講演会

埼玉県立伊奈学園総合高等学校で開催

◇大学生招へいプログラム

第2期生の旅立ち

中学生交流プログラム / 記念品のTシャツでサイン交換



青少年交流事業

中学生交流プログラム 3月に中国大連で実施

日本の中学生にぜひアジアに対する興味を持ってもらいたいと新たに中学生交流プログラムを企画しました。(財)国際文化フォーラムが編集制作に取り組んだ中国の中学校向け第二外国語教育用日本語教科書『好朋友—ともだち—』全5冊の完成を記念し、中国大連市で実施しました。7名の好朋友特使が現地で日本語を学ぶ中学生とともに授業に参加し、家庭を訪問してナマの生活を体験。5日間という短い期間でしたが、交流を深め、多くの発見がありました。

>>詳細は次ページにて



大連市第37中学での交流会



学術交流プログラムに参加した14名の学生たち

香港中文大学 — 早稲田大学 学術交流プログラム

本学術交流プログラムは香港中文大学(CUHK)のUnited Collegeがイニシアティブをとり、毎年海外の大学と交流しています。さまざまな国際交流企画、講義、アクティビティを通じてお互いの文化や社会に関する理解を深め、共同研究によって将来のアジアを担う人材育成とネットワーク作りを目的としています。今回は早稲田大学をパートナーとし、本年2月に日本で、3月に香港でそれぞれ1週間実施しました。

>>詳細は次ページにて

かめのりコミュニティ

中学生交流プログラム 「好朋友になれた5日間」

7名の好朋友特使たちは、山ほどの期待と少しの不安を抱えて、3月27日に大連空港に降り立ちました。

初日：大連市内を見学。中山広場(旧大広場)や大連京劇院(旧東本願寺)では大連と日本との歴史を、大連市街の高層ビル群やアジア最大の星海広場では、発展する大連を体感しました。その晩の大連教育学院主催歓迎会では、豪華な部屋、見たことのない大きな円卓、食べたことのない中華料理に驚きの連続でした。

2日目：日本語を学ぶ大連市31中学の生徒7名とホテルで対面。水族館に向かうバスの中で、女子はすぐに打ち解けましたが、男子2組は、筆談を試みるもなかなか会話が続きません。しかし、昼食のレストランで、日中の生徒全員が輪になりゲームを始めた途端に緊張がほぐれ、みるみる仲良くなっていきました。「あの昼食を境に緊張が解けた。国境はないと知った」31中学の生徒の感想です。その晩は、31中学の生徒の家を訪問し、餃子づくりを体験したり、お父さんに中国将棋を教えてもらったり、それぞれ楽しい時間を過ごしました。

3日目：31中学を訪問。運動場で全校生徒に紹介され、休み時間の体操と一緒にしました。その後、日本語の授業に参加し、美術の先生の指導による切り絵づくりや給食も体験しました。最後の時間には、31中学の生徒たちが歌、ダンス、伝統楽器の演奏、武術、日本のアニメのアフレコを披露してくれました。帰り道、大型スーパーで買い物。夜はしゃぶしゃぶをお腹一杯食べました。

4日目：午前中は、「いくらですか」「高い！安くしてください」という中国語で値段交渉に挑戦し、中国結やチャイナドレスなどを買いました。午後は37中学を訪問し、卓球、書道、切り絵をして交流。37中学の生徒の見事な個人芸に圧倒されつつ、特使7名は力を合わせてリコーダーと歌+ダンスを披露しました。特使たちは、次回は一芸を磨いてから中国に来ると決意していました。大連最後の夜は、31中学の7名の生徒たちを招いての日本料理店でのお別れ会でした。別れを惜しみあう7組14名の生徒たち。かれらの感想に共通していたのは、抱いていた中国や日本のイメージが変わった、「好朋友(ともだち)」を

作れた、一生忘れられない思い出ができたということでした。

「僕達は中国の中学生と交流を深める『異文化理解』が目的で中国へ行ったと思っている。正直な所、僕自身はそこまでできたと思っていない。そして僕は決めた。この不足分は未来で返すと」感想文にこう書いた特使がいました。今回の交流はきっかけを提供したにすぎません。この経験を生かし、今後特使たちが一回りも二回りも大きくなってくれることを期待したいと思います。

報告：(財)国際文化フォーラム
事務局次長 水口景子



訪問した家庭で餃子作り

助成事業報告

香港中文大学—早稲田大学 学術交流プログラム

今回の共同研究のテーマは“Internationalization in Higher Education: Myth and Reality”(高等教育の国際化：神話と現実)。日本と香港の高等教育制度、そして両国を代表する大学の国際化に向けた取り組みを統計や事例を含め考察し、その特徴や課題を分析しました。興味深いのは両大学の参加者に中国本土からの留学生がいたことで、彼らの参加が両大学の国際化を示すとともに、別の視点から分析でき、より意味深いものとなりました。参加者は学業に優秀なだけでなく、思いやりをもった素晴らしい若者たちでした。



雪景色の猪苗代への旅行

参加者の感想を見ると、香港中文大学の学生は日本の歴史、文化を学んだ雪の猪苗代への旅行が、また早稲田大学の学生は300名の聴衆の前に英語による成果発表の体験が最も印象的だったようです。なによりお互いを尊重し、共に学び、議論し、生活することによって育んだ友情と未来につながる人間関係を築くことができたことがこのプログラムの最高の成果だと思えます。最後に参加者の言葉をいくつか披露します。

“I am literarily cultivated. From the discussion over higher education and Internationalization, I was impressed by the open and conscientious attitude demonstrated by the Waseda students.” (CUHK)

“Hong Kong students’ presentation opens my eyes to professional skills of doing academic research. Stimulated by their exquisite performance, I devoted all my effort to our presentation.” (Waseda)

“I found it a surprise that CUHK students shouldered all responsibility in planning and conducting tours while in Hong Kong. They are much more independent and confident in taking on leadership role. (Waseda)”

“We are not barred by language, cultural differences or historic background. I believe that true friendships have been cultivated in such warm and friendly environment with many close interactions. (We were even naked to each other at Onsen!)” (CUHK)

“As a mainland student, I recognized the cultural differences between Japan, HK and mainland. The students from Hong Kong are equipped with global visions. I enjoyed discussing with them and study the cultures of different areas, share the results of study, promote our understanding about the world, and enhance our global thinking and cultural understanding.” (Waseda)

報告：(財)かめのり財団 事務局次長 西田浩子

高校生交換留学プログラム

来日と出発

本年3月下旬、アジア各国から22名の受入生が来日。到着後の懇談会では、「日本人の挨拶の仕方や礼儀について興味がある」「日本語の発音の美しさに魅かれて、日本人と生活しながら日本語を学びたいと思った」「華道や弓道などの伝統文化を習いたい」など日本への興味や抱負を話してくれました。多くの受入生が楽しみにしていた満開の美しい桜に迎えられ、それぞれ配属地域での生活を始めました。来日して3ヵ月あまりが経ち、日本語の学習を進めながら、クラブ活動や様々な行事に参加し、ホストファミリーや友だちと充実した毎日を送っています。

また、5月にはタイへ1名、6月にフィリピンへ2名の派遣生が出発。「タイ人と友だちになり、タイ語や文化に興味を持った」「将来、経済学を学びたいので、フィリピンでの生活を活かしたい」とそれぞれの留学の目的を胸に刻み、異文化への旅を始めました。言葉の壁や習慣の違いに戸惑いながらも、人々の明るい笑顔や優しさに包まれ、少しずつ現地の生活に溶け込んでいます。

高校生交換留学プログラム参加者募集

現在、当財団の高校生交換留学プログラムに参加する高校生および留学生のホストファミリーを募集しています。詳細については、次の実施団体へ直接お問い合わせください。

(財) AFS 日本協会
Tel:03-6206-1911(代表)
<http://www.afs.or.jp/>

(財) ワイ・エフ・ユー日本国際交流財団
Tel:03-3404-0141
<http://www.yfu.or.jp/>

報告

本年4月、インドネシアバリ島で行われたAFS Asia-Pacific Initiative Meeting (AAI・AFSのアジア地域会議)20周年記念イベントで当財団の高校生交換留学プログラムへの支援に対する謝意として、楯をいただきました。今後もアジアの中で



AAI 会長 佐藤敏氏より楯を授与されました

のより深いつながりを築くべく多くの高校生が異文化体験できるような支援を続けていきたいと思います。



出発前のオリエンテーションにて



受入生から記念品贈呈



アジアからの受入生



アジアからの受入生

第4回かめのり賞募集のご案内



かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの国際相互理解の増進に草の根で貢献している方々の活動を顕彰し、支援します。交換留学、文化・スポーツなどの青少年交流や語学教育などの活動をしているNPO(非営利団体)、ボランティアグループ、個人を対象とし、本賞の記念の楯と活動奨励金を贈呈します。詳しい募集要項は、ホームページをご覧ください。今回も多くの方からのご応募をお待ちしております。

第4回かめのり賞募集要項

<http://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>

事務局 担当：菊地

TEL: 03-3234-1694 (9:30~17:30)

E-mail: info@kamenori.jp

日中友好植林を視察

第3回かめのり賞の表彰団体である(特)日中環境保全友好植林実践会が4月に行った第12回日中友好植林ツアーにご招待いただき、中国大連市での植林活動を視察しました。今回は大連市内から車で約2時間の経済特区花園口で、もみじ、イチョウ、トウヒを約4万本植えました。日本からの参加者と大連市関係者、現地日系企業、地元小中学生など約700名の手で、一本ずつ植えていきました。植林実施までの水野理事長をはじめ事務局の皆さんの周到な準備のもと、未来を担う子どもたちや大連市との協働で行われた活動を体験することができ大変良い経験となりました。我々の手



水野理事長

で植えた木々が、近い将来、春には新緑が輝き、秋には色彩豊かな森になることを心から願っています。

報告：事務局 菊地佐智子

講演会

埼玉県立伊奈学園総合高等学校で開催

本年6月、王敏理事(法政大学教授)による講演会を埼玉県立伊奈学園総合高等学校で開催しました。中国語を履修している生徒約150名を対象に、「なぜ異文化理解は必要か—日中間異文化理解—」と題した講演の中で、「報道されることだけで物事を判断せず、広い視野を持って、様々な情報や色々な国の人々から刺激を受け、自分の考えを活性化させていくことが異文化理解には重要である」とのメッセージが伝えられました。

上：講演会の様子
下：著書を贈呈



大学生招へいプログラム

第2期生の旅立ち

韓国出身の金東煥(Kim Dong Hwan)さんが本年3月で当財団の2年間の奨学金支給期間を終えました。4月以降も立命館大学大学院での研究を続け、博士課程へ進むことも視野にいれながら、来年1月の修士論文提出に向け学業に励んでいます。2年間の日本での生活は、研究だけでなく日本語の上達、文化や習慣を知るよい機会となり、多くのことを得られたとの報告がありました。今後もさらに研究を進め、ますますの活躍を期待しています。



金さん、これからも頑張ってください!

大学院奨学生募集

日本の大学院で研究をしているアジアからの留学生に奨学金を支給します。詳しい募集要項は、8月以降ホームページで発表の予定です。

奨学生のこぼれ

体験レポートの中から、印象に残る文を紹介します。

タイでの生活を通じ、違う文化を感じ理解していく事が異文化交流だと気づく事が出来ました。異文化交流を活発にしたり国際性豊かな人になるために必要な事は「受け入れる心」だと思います。世界中の人々がさらに異文化交流すれば、よく理解は出来なくても受け入れあう事で色々な事がうまくいくのではないかなあと思えます。自分の常識ではありえないと思う事もその国の人達にとっては普通の事だということも学ぶ事ができました。

2009年タイへ留学 荒武 凜

日本の冬は予想以上に寒いです。しかし、友達や家族との生活はとても楽しかったので、心の中はあたたかいです。日本に留学して僕は成長したと感じます。一人っ子政策の中国は、自己中心になってしまいます。日本に来てホストブラザー達との生活の中で、兄弟の楽しさをよく理解し、共有すること、尊敬しあうことも習いました。

2009年中国から留学
Mr.Yuhao Geng

フィリピンで戸惑う事もたくさんありましたが、日本人がフィリピンの人々を見習うべきところもたくさんあるなと感じました。まず、フィリピン人の他の人に対するホスピタリティです。日本人であろうと他国の人であろうと、誰でもわけ隔てなく、笑顔で話しかけてきて、すぐにフィリピンの人達の仲間に入れてくれます。もしかしたらそれは当たり前のことかもしれませんが、実際にやってみるとすごく難しいことだと思います。

2009年フィリピンへ留学 里井 舞

今後の予定

- 7月 【短期】第3期生中国へ出発
- 8月 【短期】第3期生韓国へ出発
【長期】第4期生中国・インドネシアへ出発
第5期生(セメスター)インドから来日
かめのり地球青少年サミット(KEYS) ジャパン開催
- 9月 王敏理事講演会 福島県浪江町、伊達市で開催
- 10月 中学生交流プログラム実施(韓国)

≪編集後記≫

設立5年目を迎え様々な方との出会いを通じて、当財団に関わってくださる方々がひとりまたひとりと増え、輪が広がっています。このニュースレターは、かめのり財団を通じて、仲間が増え深く結びつくことを願い、西田事務局長が「かめのりコミュニティ」と名付けました。

これからどのような方々がこのコミュニティに加わってくださるのか楽しみです。(菊地)

発行人 / 西田 浩子
編集 / 菊地 佐智子
デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)
印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します!

財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/